

熊本県立あしきた青少年の家 指定管理者 令和4年度(2022年度)
管理運営評価票

所管部課:教育庁市町村教育局社会教育課

I 施設の管理概要

指定管理者名	ひとつくりJAPANネットワーク・三勢共同体
指定期間	令和4年4月1日から令和9年3月31日まで
施設概要	<p>① 所在：葦北郡芦北町鶴木山</p> <p>② 施設：宿泊棟（和室・洋室）、大・中・小研修室、体育館、文化ホール、キャンプ場等</p> <p>③ 目的：本施設は、健全な青少年の育成と県民の生涯学習の振興を目的として設置された県立の青少年教育施設である。宿泊施設及び各種の体験活動のための施設・設備を活用して、利用団体による自主的な研修利用のほかに、自然や季節の特徴を活かした教育的プログラムとして企画事業を実施している。自然の中での体験活動が中心であるため、特に利用者の安全確保に留意して運営している。</p>
指定管理料	311,073,000円（4施設（天草青年の家、菊池少年自然の家、豊野少年自然の家、あしきた青少年の家）を一括で委託、利用料金制）

II 管理運営の評価

1 管理業務の水準の評価

管理業務の水準を表す指標	目標値	実績値	備考
研修者延べ数	38,278人	40,242人	前年度実績 27,208人
研修活動中の事故の有無	0件	0件	軽傷を除く

【点検・調査結果及び評価】

令和4年12月まで新型コロナウイルスの影響で受入数を定員の概ね半数を目安としていたため、研修者延べ数はコロナ前（平成31年度）と比べると減少しているが、令和3年度実績と比べると増加し、結果として目標値を上回っており、利用者の呼び戻しに向けて、工夫しながら受け入れを行ったと認められる。

県では、特に施設における利用者の安全確保を重視し、指定管理者への指導を徹底しているため、期間中の事故発生が0であった点について評価できる。

2 管理業務実施状況

① 施設維持管理業務実績

作業項目	業務内容	実施回数	備考
清掃	所内清掃	通年	
保安・警備	宿直業務	通年	
	ボイラー運転監視	通年	
保守点検	電気設備保守点検	年12回	専門業者に委託
	エレベーター設備点検	年12回	同上
	空調設備点検	年4回	同上
	ヒートポンプチラーユニット点検	年2回	同上
	吸収式冷温水機点検	年2回	同上
	監視カメラ保守点検	月1回	同上
	浄化槽保守点検	年24回	同上
	浄化槽清掃	年1回	同上
	自家発電設備点検	年2回	同上
	消防設備保守点検	年2回	同上
	防火対象物点検	年1回	同上
	衛生設備点検(温水ヒーター)	年2回	同上
	衛生設備点検(その他)	年3回	同上
	自動ドア保守点検	年3回	同上
	移動式観覧席点検・整備	年1回	同上
	貯水槽保守点検	年12回	同上
	貯水槽清掃	年1回	同上
	貯湯タンク洗浄点検	年1回	同上
	害虫駆除	年1回	同上
	厨房ダクト清掃	年1回	同上
	ボイラー排ガス測定	年1回	同上
	排煙ファン法定点検	年1回	
	水質検査(残留塩素)	週1回	
	水質検査(簡易水道)	年1回	専門業者に委託
	水質検査(浴槽)	年1回	同上
	浄化槽法定点検	年1回	同上
	地下タンク点検	週1回	同上
	地下タンク保守点検	年1回	同上
	空気環境測定	年6回	
	建築設備定期点検	年1回	
<p>【点検・調査結果及び評価】 施設設備の清掃、保安・警備および点検等については仕様書どおり専門業者が実施、頻度・内容ともに水準を満たしており、良好に管理されている。</p>			

② 運営事業実績

〔主な事業・イベント〕

事業・イベント名	開催時期	参加者数	趣旨・内容
集団宿泊教室指導者セミナー ①・②・③	4/19、5/6 7/8、26 8/8、26	319人	施設を利用予定の集団宿泊教室担当者に、研修の意義や効果的な利用方法について習得してもらう。 また、体験活動における指導者の安全管理意識及び指導技術の向上を図り、充実した集団宿泊教室を実施してもらえるようにする。
季節の自然で遊び隊 ～海で遊ぼう編～	7/17～18	36人	海辺の活動における正しい知識や危険への対処法を身に付けるとともに、海的美しさや楽しさを体感し、自然を慈しむ心を育てる。
みんなの家キャンプ ～地域に学ぶ防災キャンプ～	8/14～20	11人	集団生活や野外生活、防災キャンプを通して、自分で生活を作り上げる自主性や協調性等の社会で生き抜く力を伸ばす。また、芦北の豊かな自然の浸る体験活動を通して、自然との親和性を高めるとともに自然と積極的に関わり持続的に共生していく技能と心情を育てる。
うたせの丘シーサイドパーク	9/24	51人	青少年の家に気軽に足を運んでもらうことで、身近な施設と感じてもらうとともに、自然の中でのびのびと活動することができる場所や機会を提供する。
渚の親子キャンプ	11/5～6	12人	キャンプ活動を通して、家族・参加者同士の親睦を深める。また、キャンプのスキルや楽しさを知るとともに、自然体験活動の重要性を知る機会とする。
いきなり来てよか！青少年の家	12/10～11	72人	様々な体験を通して自然に触れることで、自然を慈しむ心を育てるとともに、家族の親睦を深める。
小学生英語体験教室 A・B・Sea	1/21～22	19人	自然体験や遊びを通して英語に慣れ親しみ、異学年や他校の児童と触れ合うことで、積極的に人と関わろうとする態度を育てる。
季節の自然で遊び隊 ～雪で遊ぼう編～	2/4	11人	冬の自然と触れ合うことで、その雄大さや厳しさを体感し、自然の大切さを理解する。また、異年齢集団における非日常の場で仲間と相談し協力する力を育むとともに、自主性、社会性、協調性を養う。
春の自然体験教室	3/4～5	19人	海岸に生息する生物の観察並びに自然の素材を使った工作及び遊び、里地里山での食べ物作り体験、棚田見学等を通して、自然と親しみ、自然を大切にすることを養う。
2023 芦北うたせマラソン応援プラン	3/26	47人	2023 芦北うたせマラソンとの連携を図り、体験活動や施設開放を通して、芦北町及び青少年の家の魅力を発信する。
第11回あしきたフォトコンテスト	10/31～ 3/27	152人	地域の新たな魅力を発見し、発信していくとともに、参加者や地域の方との交流促進を図る。

【点検・調査結果及び評価】

令和3年度に申込数の多かった事業を複数回実施する等、実施数は令和3年度と比較して6事業増加した。コロナ禍でも実施できるように事業内容の見直しを行い、実施した事業はほぼ定員に達したことは評価できる。

地域の自然等の特色を活かしたプログラムを実施した他、より多くの人に自然体験活動の機会を提供したことは評価できる。

3 利用状況

施設名	年計	年計	前年度計	前年度比
本館	開館日数	348 日	348 日	100.0%
	宿泊可能日数	335 日	335 日	100.0%
	利用日数	261 日	213 日	122.5%
	利用率	75.0%	61.2%	122.5%
	利用者実数	18,185 人	12,579 人	144.6%
	利用者延べ数	34,491 人	23,906 人	144.3%
キャンプ場	開館日数	348 日	348 日	100.0%
	宿泊可能日数	335 日	335 日	100.0%
	利用日数	23 日	29 日	79.3%
	利用率	6.6%	8.3%	79.6%
	利用者実数	422 人	171 人	246.8%
	利用者延べ数	1,811 人	411 人	440.6%
出前講座等	利用者実数	2,669 人	2,175 人	122.7%

【点検・調査結果及び評価】

令和4年12月から受入れの制限を解除したこともあり、前年度に比べて利用者が増加しており、コロナ禍以前の利用者数に戻つつある。利用者が増加した中で、新型コロナウイルス感染拡大防止対策をしっかりと行い受け入れを行ったことは評価できる。

出前講座については、利用者の年齢や人数に応じたプログラムを提供する等、内容を工夫することで職員のスキルアップにもつながっていることは評価できる。

4 管理経費の収支状況

① 収入			
項目	内訳	金額 (円)	
利用料金収入	本館	一般 2,180 人、高校生以下 13,462 人、 就学前の者 210 人	8,073,840
	キャンプ場	一般 459 人、高校生以下 852 人、就学前の者 5 人	232,080
	宿泊を伴わない利用	一般 1,063 人、高校生以下 1,122 人、 就学前の者 23 人	215,550
	文化ホール	84 時間	131,880
	マリン活動船艇	10,056 人	502,800
指定管理料	指定管理者による本施設への振り分け	110,229,000	
企画事業等収入	13 事業	815,815	
その他活動収入	出前講座 56 団体	110,210	
プログラム活動料金		959,390	
食事代		34,879,470	
シーツ等クリーニング代		2,401,760	
雑収入		299,715	
合計		158,851,510	
	収入未済額	0	
	うち利用料金収入分	—	

② 支出		
項目	内訳	金額 (円)
人件費		65,973,405
運営管理費	旅費、管理費、活動プログラム費等	5,619,570
維持管理費	光熱水費、業務委託費、施設修繕費	81,628,455
企画事業費		760,846
合計		153,982,276

【点検・調査結果及び評価】

利用料金収入については適正に収納され、指定管理料と併せて施設管理運営に必要な経費に適切に使用されている。

5 利用者調査結果

調査実施 内容	調査年月日	令和4年4月1日～令和5年3月31日											
	調査方法	全ての利用者団体にアンケート調査を実施											
	調査対象数	280 団体											
調査結果	調査分野	回答内容											
		非常によい		よい		普通		あまりよくない		悪い		無回答	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
	集団生活を学ぶ場	249	88.9	29	10.4	2	0.7	0	0	0	0	0	0
	活動内容	218	77.9	25	8.9	2	0.7	0	0	0	0	35	12.5
	職員の受入れ対応	250	89.3	25	8.9	4	1.4	1	0.4	0	0	0	0
	職員の指導・助言	247	88.2	24	8.6	6	2.1	0	0	0	0	3	1.1
	食堂スタッフの対応	193	79.1	38	15.6	10	4.1	3	1.2	0	0	36	※1
	食事の質	133	52.6	73	28.9	39	15.4	7	2.8	1	0.4	27	※2
	食事の量	141	55.7	69	27.3	38	15.0	5	2.0	0	0	27	※3
	屋内の施設・環境	203	72.5	53	18.9	17	6.1	2	0.7	0	0	5	1.8
	屋外の施設・環境	213	76.1	54	19.3	7	2.5	0	0	0	0	6	2.1
	また利用したいか	ぜひ				機会があれば				利用しない		無回答	
	253	90.4			23	8.2			0	0	4	1.4	
利用者からの意見等													
【点検・調査結果及び評価】		ほとんどの質問項目において「非常によい」、「よい」と回答した合計が全体の9割を超えており、利用者の満足度は高いと評価できる。特に、質問項目の「職員の指導・助言」の向上を目標として取り組みを行ったことで、令和3年度よりも「非常によい」の値が上昇しており、利用者の満足度向上のため、全職員が積極的に取り組みを行っている点については評価できる。											

※1～3 食事をとっていない団体は無回答のため、比率計算の分母に算入せず。

6 意見・苦情等の対応

利用者からの意見・苦情等	改善状況
特記事項なし	
【点検・調査結果及び評価】	

7 昨年度の評価で、改善を指摘された事項に対する対応

指摘事項	改善内容・結果
コロナ禍で減少した利用回復に向けて広報活動を行うこと。	校長会やPTA総会等の場を利用し、新たな利用者の確保に向けた広報活動を行った。また、施設のFacebook や Instagram を活用して随時情報発信を行った。
【点検・調査結果及び評価】 SNS 等を活用した積極的な広報活動により、施設の認知度向上や利用者の増加につなげている点について評価できる。	

8 その他

特記事項なし